

議題 3

青少年交流事業の開催結果について（報告）

- | | |
|-------------------------------------|----|
| 1 「青少年国際平和未来会議2022（第18回）」開催結果 | 5 |
| 2 「2022広島市・大邱広域市青少年交流事業（第21回）」開催結果 | 8 |
| 3 「令和4年度広島・長崎市児童生徒平和のつどい（第44回）」開催結果 | 11 |

「青少年国際平和未来会議 2022（第18回）」開催結果

1 目的

広島市の姉妹・友好都市等世界の国々の青少年と本市の青少年が互いに世界平和について考え、意見を交換し合うことにより、友情と相互理解を深める。また、会議の参加者が、広く世界の国々の次代を担う青少年に対し、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を願う「ヒロシマの心」を伝え、世界平和への意識を高めていくことを通して、グローバル人材として活躍していくことを目指す。

2 主催

青少年国際平和未来会議実行委員会

（構成：一般社団法人広島国際青少年協会、広島市教育委員会、広島市ほか）

3 期間

令和4年7月24日（日）～11月20日（日）

オンライン会議 9月18日（日）、25日（日）、10月2日（日）、9日（日）、16日（日）

4 参加者

46名（6か国7都市）

広島市 7名（高校生3名、大学生4名）※過去の参加者2名を含む。

姉妹・友好都市 ボルゴグラード市、ハノーバー市

その他の都市 成都市、モンテンルパ市、サンクトペテルブルグ市、テヘラン市

5 年間の取組

令和4年度は、当初予定していたボルゴグラード市が主催都市を辞退したことにより、モンテンルパ市が主催都市となった。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、過去2年度と同様に、オンライン形式で会議を実施した。

構成	日程	内 容
事前研修	7月24日（日）	・自己紹介 ・アイスブレイク ・役割分担 ・講話「青少年国際平和未来会議の歴史と主旨について」 ・講話「世界の街角から 新たなコモンズとは 2022年」 ・過去の参加者の体験談（2021年参加者）
	7月31日（日）	・講話「国際交流・異文化理解について」 ・アイスブレイク ・プレゼン準備① ・平和記念資料館見学
	8月11日（木・祝）	・モンテンルパ市の紹介 ・プレゼン準備②（動画撮影） ・被爆体験講話聴講 ・「広島VRについて」
	8月21日（日）	・講話「記憶の継承」 ・語学研修 ・プレゼン準備③
	9月11日（日）	・プレゼンリハーサル【オンライン】
平和記念式典	8月6日（土）	平和記念式典参列
オンライン会議	9月18日（日） 25日（日） 10月2日（日） 9日（日） 16日（日）	・開会式 ・各都市プレゼンテーション（都市紹介と平和への取組） ・講義、グループディスカッション、各グループからの発表 ・広島VRの紹介 ・文化交流 ・閉会式
事後活動	11月1日（火）	・国際フェスタ2022での活動報告の準備【オンライン】
	11月13日（日）	・活動報告リハーサル【オンライン】
	11月20日（日）	・国際フェスタ2022での活動報告 ・ヒロシマ平和未来大使委嘱状の交付と振返り

6 成果

- ・ コロナ禍の対面による交流が困難な中、オンライン会議を開催し、各都市の青少年が、時間や場所の制約を越えて意見交換や異文化交流を行うことで、友情を育むとともに、若い世代が連帯して各都市において平和への思いを発信するなど平和活動を行うきっかけとすることができた。
- ・ 広島市からの参加者にとって、事前研修等は、被爆の実相についての知識を更に深め、若い世代として被爆体験を継承する役割を担っているという意識を高める機会となるとともに、オンライン会議においては、そうした思いを自分の言葉で海外参加者に伝えることができた。

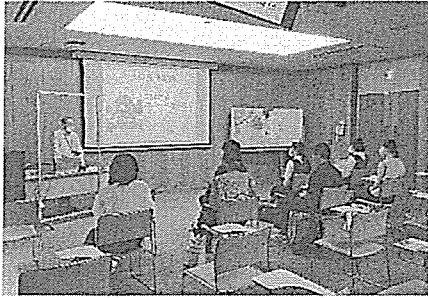
7 課題等

- ・ 参加者が会議終了後も継続的に平和活動に取り組めるようオンラインミーティングやSNSなどを活用して、事後活動を行える機会を提供する必要がある。
- ・ オンライン会議の中で、グループごとにSNS等を活用し平和活動について発信する取組を行ったが、会議の成果やその後の活動についても参加各都市のホームページへの掲載などを含めて、継続的に発信できるような仕組みを作っていく必要がある。
- ・ より多くの青少年に応募してもらえるよう、活動内容をまとめたリーフレットやDVDを各学校に配付するなど、活動の成果を広く周知していく必要がある。
- ・ 来年度は4年ぶりの対面での会議をハノーバー市において開催を予定しており、ハノーバー市等と連携しながら、オンライン会議ではできなかった共同アピール文の作成などができるよう取り組む必要がある。

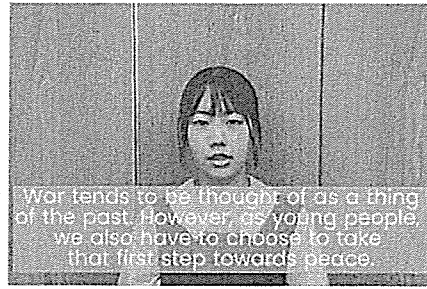
8 参加者の感想

- ・ 平和に対して高尚な考えは必要ないのだと思います。争いがあるより楽しいほうがいい。明日も自分の好きなことがしたい。泣くより笑いたい。平和とはそんな当たり前のことですが、それを奪われた人がたくさんいます。だからこそ、私は当たり前に感謝し、平和の大切さを伝えていきたいと思います。
(高校1年生 A)
- ・ 青少年国際未来平和会議に参加して、まずは平和に向けて何かしたい人がこんなにたくさん世界にいると知れたことがとても嬉しかったです。私の学校など身近な人は平和教育に興味がある人が少なく、私が何かしたいと感じても、何をすればいいかわからないし、もし平和に関して行動を起こしたとしても、受け入れられないのではないかと躊躇していました。また、実際に平和について発信していくことに興味を持っていると言ったとき、からかわれたこともありましたが、世界には日本でさえ詳しく知らない人が多い原爆のことを学ぼうとしている人がいたり、何か行動をしなくてはならないと感じている人がいたり、同じ志を持っていると知り、とても心強くなりました。(高校1年生 B)
- ・ 私は今回未来会議に参加して英語でしゃべることの難しさを実感しました。実際に会議中自分の意見をもつことができたとしても、言葉にならなくて発表できないということがたくさんありました。また、海外の参加者の方の積極性には驚かされました。私が受動的に話を聞いている間、海外の方達は自分の意見を考えながら話を聞いているようで、スピードの速さは見習う必要があるなと思いました。後悔していることもありますが、世界の人たちのレベルに触れることができたり、違った視点から見た意見を知ることができてとても有益な時間を過ごすことができました。(大学1年生 C)
- ・ 事前研修では、被爆の実相や実態について改めて学ぶとともに、英語に関する講習やプレゼン準備など学んだ内容を人々に伝えていく力を養う機会を得ることができました。一方、参加者が問題について議論をする機会には恵まれず、少々受動的な印象を受けました。一度全員が揃う公の場で議論ができれば、フィードバックによって各々の考えがさらに明確化され、オンライン会議において自信をもって発言する一助となったように思います。(大学4年生 D)
- ・ 今回、現在様々な状況下にいる同世代の人々と共にこの会議に参加するという貴重な経験ができたことに感謝します。この会議で得た知識や視点をもとに、自分の意見の改善し、この会議で出来たコミュニティを積極的に活用しながら、今後も平和活動を行っていきたいです。(大学2年生 E)
- ・ 今回の会議は、学術的な講義を基盤として、討論が行われました。複数回あった各会議のまとめ活動は、参加者たちが各々のグループメンバーと協力し、主体的に行動することができるものでした。グループのメンバーと意思疎通を図り、意見を共有しました。更にそれを他の参加者たちの考えと結び付けました。討論後、平和構築に向けた一步を活動として実践することで、自己満足で終わらない有意義なものになったと考えます。(大学4年生 F)

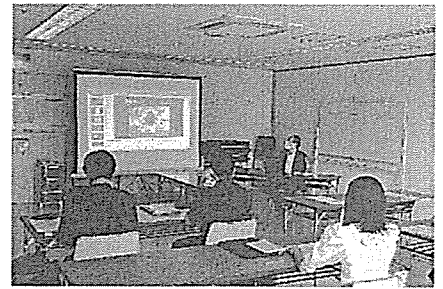
《活動の様子》



被爆体験講話



被爆体験講話 感想収録



講話「記憶の継承」



モンテニルパ市の紹介



平和記念式典参列



プレゼン用動画撮影



オンライン会議の様子



グループディスカッションの様子



国際フェスタでの活動報告



委嘱状交付式

「2022 広島市・大邱広域市青少年交流事業（第 21 回）」開催結果

1 目 的

広島市の青少年が姉妹都市である韓国大邱広域市の青少年との交流を行うことにより、本市と大邱広域市の青少年の相互の友情を深めるとともに、世界平和への意識を高める。

2 主 催

広島市・大邱広域市青少年交流事業実行委員会

（構成：広島県日韓親善協会、広島市教育委員会、広島ユネスコ協会、NPO 法人友愛アカデミー）

3 期 間

令和 4 年 10 月 16 日（日）～12 月 4 日（日）

オンライン交流 令和 4 年 10 月 30 日（日）、11 月 5 日（土）及び 12 日（土）

4 参加者

広島市 39 名〔青少年 32 名（中学生 8 名、高校生 24 名）、指導者（通訳含む）7 名〕

大邱広域市 37 名〔青少年 23 名（中学生 16 名、高校生 7 名）、指導者（通訳含む）14 名〕

5 年間の取組

今年度は、広島市から大邱広域市に青少年を派遣し、交流活動を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、過去 2 年度と同様にオンラインで交流した。

構 成	日 程	内 容
事前研修	10 月 16 日（日）	オリエンテーション SDG s 講座 文化理解（韓国 大邱広域市） グループ別討論
	10 月 23 日（日）	語学研修（韓国語） メッセージカード作り グループ別討論（テーマに関する事前学習）
オンライン 交流	10 月 30 日（日）	グループ別討論【オンライン】 両市の青少年が、5 グループに分かれて グループ別のテーマについて話し合う。 テーマ：「環境」「水」「平和」「青少年文化」「夢」
	11 月 5 日（土）	資料作成【オンライン】 成果報告会に向けて説明資料を作成する。
	11 月 12 日（土）	成果報告（グループ別発表）【オンライン】 青少年共同宣言 文化交流（書道パフォーマンス、ダンス）、合唱
事業報告	11 月 20 日（日）	国際フェスタ 2022 今年度のオンライン交流の報告
事後研修	12 月 4 日（日）	国際交流講座（今後の国際交流活動に向けて） 交流活動の振り返り 活動修了証授与式

6 成果

- ・ 早い時期から両市指導者でオンライン協議を繰り返したことで、過去2回のオンライン交流に比べて、プログラムの充実を図ることができた。また、参加人数の制約が少ないオンラインの特性を生かして、より多くの青少年に交流の機会を提供することができた。
- ・ 各グループに大学生、留学生などの通訳ボランティアを2名程度配置したことで活発な意見交換が進み、テーマに関するグループの意見をまとめることができた。また、グループ内で日韓の参加者がペアを組み、メッセージや記念品を送りあうことで友情が深まり、交流事業終了後も、参加者の多くがSNS等での交流を続けることができた。
- ・ 過去に交流事業に参加したメンバーによるOB組織が、運営補助や通訳ボランティア等のサポートを継続的に行っており、参加者に対して交流事業終了後の自主的な国際交流活動のモデルを示すことができた。(OB組織メンバーのうち2名は、「ヒロシマ・メッセンジャー」の大邱広域市担当に就任(令和4年1名、令和5年1名))

7 課題等

- ・ 来年度は本市青少年を大邱広域市へ派遣する予定としており、これまでのオンライン交流で培った経験を生かし、事前研修や事後研修にオンライン交流などを取り入れるとともに、大邱広域市と連携しながら、体験活動に重点をおいたプログラムを実施していく必要がある。
- ・ 参加者が事業終了後も継続して交流活動が行えるよう、OB組織の情報提供を行い、次回以降も交流事業に関わっていけるようにするとともに、OB組織メンバーが自主的な交流活動を企画できるよう支援を行っていく必要がある。

8 参加者の感想

- ・ 私が今回、この交流事業に参加して感じたことは、チャレンジ精神が大切だということです。私は昨年もこの交流事業に参加しましたが、その時は、通訳の方が沢山サポートして下さい、私は日本語ばかり使ってしまったのですが、前回の後悔を生かすため、今回は積極的に韓国語を話すことにチャレンジしました。韓国語を使って実際に韓国の方と交流することの楽しさ、そして自分なりの表現方法で会話できたことの喜びを感じました。(高校2年生 A)
- ・ 私が交流を通して印象に残ったことは主に二つあります。一つ目は、お互いの国のイメージについて話したときに、韓国では日本に良い印象を持っている人も多いと知ったことです。今まで、韓国は日本が好きでない人ばかりだと思っていたので、嬉しかったです。二つ目は、兵役についての考え方において、共通点もあったけれど、相違点もあり、様々な意見が出て興味深かったことです。平和主義である日本と、停戦中である韓国との違いを感じました。(中学3年生 B)
- ・ 私のグループは「夢」をテーマにお互いの意見を聞きました。一番印象に残っているのは大邱メンバーが考えた「有望職種とは何か？」という質問です。私は、韓国の中学生在がこの質問をしたことに素直にすごいなと思いました。さらに、大邱メンバーの答えは「パン屋さん」で、「パンをたくさん作って人に食べてもらいたい。世界には食べ物を必要とする人がたくさんいるから。」というものでした。純粋な理由と柔軟な発想に私の心は刺激を受けました。考え方は一つじゃなくて、さまざまな視点で考えることが大切だと思うことができました。(高校2年生 C)

《青少年共同宣言文》

環境

私たちは深刻化している地球規模の汚染が、私たち個人の努力ではなく、全世界が共に努力しなければならない問題であることを認知し、地球を愛する気持ちを一つにして環境を守るために努力します。私たちは地球を悪い状態にも良い状態にもすることができます。1人1人の行動が環境に影響することを認識し、美しい地球を後世に受け継いでいくために努力します。

水

私たちは持続可能な水資源を活用するために日常の中で実践可能な努力を傾けます。広島の水も大邱の水も綺麗。だからこそ、その水を失わないように私たちが守っていきます。

平和

私たちは世界平和のためにマナーを守り、戦争を止めるためにできることを見つけて実践します。私たちは、世界平和のために、お互いの相違点を認め、身近な環境から平和に近づけていきます。

青少年文化

私たちは美しい韓国と日本の文化、もっと美しく咲く私たち青少年の文化を思う存分愛します。私たちはこれからも文化の違いを学び、お互いの青少年文化を大切にしていきます。

夢

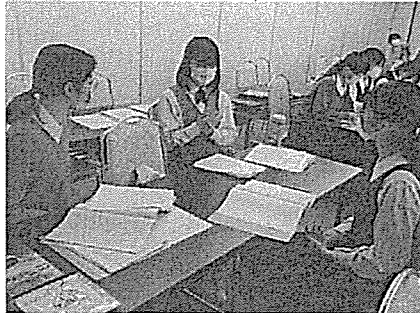
未来は私たちが育てる。未来はドリームチームが担う。未来は私が育む。美しい未来のための夢、私たちは一緒に作っていきます。

私たちは大きな夢を抱き、夢のために全力で努力することを誓います。

《活動の様子》



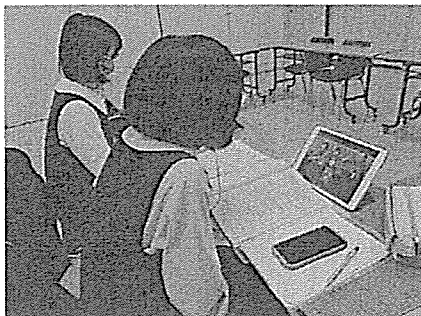
事前研修 (ヒロシマ・メッセンジャー講座)



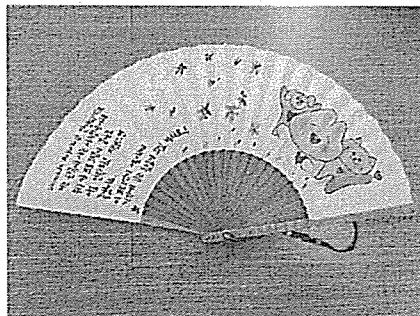
事前研修 (グループ別討議)



オンライン交流の様子



オンライン交流の様子



大邱広域市からの記念品 (伝統扇子)



事後研修 (交流活動の振り返り)



オンライン交流の様子 (合唱)



広島市の参加者



大邱広域市の参加者

「令和4年度広島・長崎市児童生徒平和のつどい（第44回）」開催結果

1 目的

広島・長崎両市の児童生徒が交互に訪問し合い、平和学習を通じて平和意識の高揚を図るとともに、世界恒久平和の実現に貢献する意欲と態度を育む。また、集団生活や体験学習を通じて、友情と親睦を深めるとともに、自主性や社会性を育てる。さらに、青少年リーダーとしての指導力や実践力を養う。

2 主催

広島・長崎市児童生徒平和のつどい実行委員会

[構成：広島市子ども会連合会（担当：安佐南区子ども会連合会）、広島市教育委員会]

3 期間

令和4年7月10日（日）～9月3日（土）

平和のつどい（オンライン交流会）令和4年8月20日（土）

4 参加者

広島市 30名〔小学生13名、高校生2名、指導者15名〕

長崎市 27名〔小学生4名、中学生2名、高校生6名、指導者15名〕

5 年間の取組

新型コロナウイルス感染症の影響により、長崎市への訪問は中止となったが、両市の「友情の絆」を絶やさないよう、各市で研修会を行い、オンラインによる「平和のつどい」でその成果を発表し、交流を行った。

構成	日程	活動内容
事前 研修	7月10日（日）	結団式、グループづくり、平和学習（被爆ピアノについて）等
	8月11日（木・祝）	平和のつどい発表資料作成 等
宿泊 研修	8月19日（金）	似島臨海少年自然の家 平和学習（碑や遺構巡り等）、キャンプファイヤー 等
	平和 のつ どい	8月20日（土）
事後 研修		9月3日（土）

6 成果

- ・ 事前研修での被爆ピアノを使った広島を継ぐための活動についての講話や、宿泊研修での似島の被爆遺構巡りなどの平和学習を通して、被爆の実相や平和への思いを次世代に伝えるための活動に対する認識を深めることができた。
- ・ オンライン交流会ではあったが、プログラムの内容を工夫したことにより、友情と親睦を深めるとともに、世界恒久平和の実現に向けて行動するきっかけとなった。

7 課題等

- ・ 来年度は、4年ぶりの広島市での開催を予定していることから、担当となる安佐北区子ども会連合会や、広島市子ども会連合会と連携しながら、長崎市の児童生徒等の受入れを行っていく必要がある。
- ・ 来年度以降においても、平和についての学びを一層深めることや、交流を通じて両市の児童生徒が友情を深めることができる活動となるよう、プログラムの内容を充実させていく必要がある。

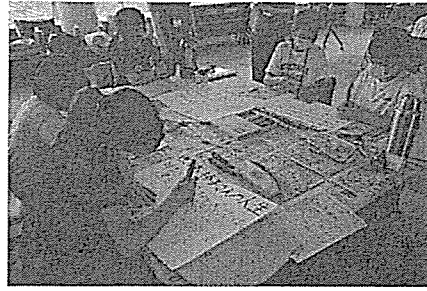
8 参加者の感想

- ・ 長崎市のオンライン交流会では、班の皆と協力して被爆ピアノについて発表しました。原爆の被害を受けた広島と長崎がこのような交流をしていく事は戦争を二度とくり返さず、原爆の怖さ、平和の大切さを忘れず考え続けていくためにとても大切な事だと思いました。 (小学6年生 A)
- ・ この会に参加して強く思ったことは、戦争を二度としてはいけないということです。なぜなら、元似島野戦病院で起きた話がとても心に残ったからです。これからの私たちの未来をどうしていくのか、私たちにできることは何かを考えるいい機会になりました。学校で学んだこと以外にもたくさんの方が学べたのでこの会に参加してよかったです。 (小学6年生 B)
- ・ 平和のつどいに参加して、少しでも原爆などに向き合い、原爆がどれほどおそろしかったのかや、世の中を平和にするためにはどうすればいいのか、ということを考えるようになりました。今回の研修会で、貴重な経験をすることができ、学んだことを伝えていく1人として、活動していきたいです。 (小学6年生 C)
- ・ 戦争のない、平和な世界をつくりたいです。いまでも、世界では戦争は起こっています。国と国が助け合い、協力していけば、戦争は起こらないのではないかと思います。だから私たちも、まずは友達や家族など、いろんな人と助け合い、協力していけばいいと思います。戦争が起きると、不安になる人や、悲しい気持ちになる人がたくさんいます。その人たちが、また笑顔になれるように私たちは努力し、それを続けたらいいと思います。 (小学6年生 D)
- ・ 広島・長崎市児童生徒平和のつどいに参加し、原子爆弾んというとても強力な爆弾が落とされた実話と平和というとうといものについて深く知ることが出来ました。また、いろいろな体験ができて、お友達もできたので、良い経験になり、とても良かったです。原爆のことについて知らなかったこともたくさん知れたので良い勉強になりました。 (小学5年生 E)

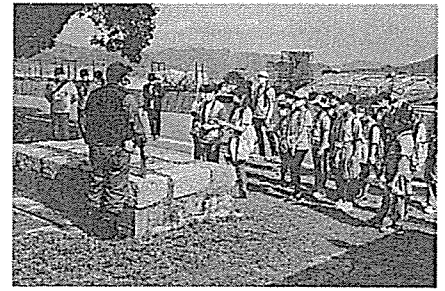
《活動の様子》



平和学習「広島を継ぐ被爆ピアノ」



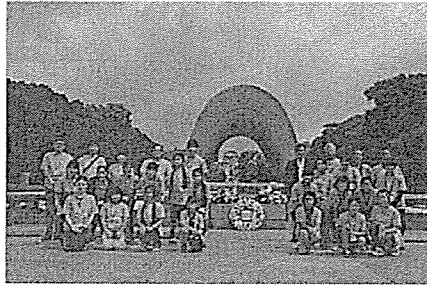
平和のつどい（オンライン交流会）準備



碑・遺構巡り



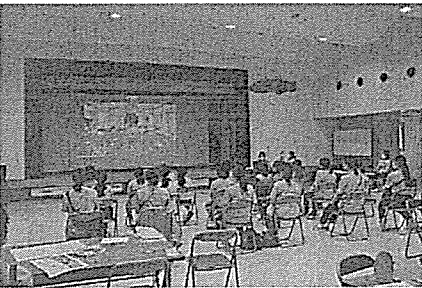
キャンプファイヤー



原爆死没者慰霊碑黙とう・献花



原爆の子の像への千羽鶴献納



平和のつどい（オンライン交流会）
長崎市からの発表



平和のつどい（オンライン交流会）
広島市からの発表



平和のつどい（オンライン交流会）
記念撮影